

伊藤 隆司教授 略歴と業績

I. 略 歴

1955年9月	広島県に生まれる
1978年3月	京都大学教育学部 卒業
1981年3月	京都大学大学院教育学研究科修士課程 修了
1983年3月	京都大学大学院教育学研究科博士課程後期課程 中途退学 京都大学教育学部助手, 三重大学教育学部専任講師, 同大学教育学部助教授, 同大学教育学部教授を経て
2007年4月	立命館大学産業社会学部教授
2021年3月	立命館大学定年退職

(主な学内役職歴)

2011年4月～2013年3月	子ども社会専攻 専攻長
2013年4月～2015年3月	産業社会学部 副学部長 (入試・高大連携担当)
2017年7月～2020年6月	立命館評議員

II. 専門分野

専門分野 教育学, 教科教育学

担当科目 初等国語科教育法, 初等国語 (書写を含む), 初等教育実習 (I, II, III), (教) 初等教育実習
の研究 A (事前指導)

学位 教育学修士 (京都大学, 1981年3月)

研究課題 (1) 生活綴方教育実践史研究
(2) 「語り合う文学教育」の研究

所属学会 全国大学国語教育学会, 教育目標・評価学会, 日本読書学会

III. 主な研究業績

著 書

1. (共著)「佐々木昂研究第1章佐々木昂の人と行動」「第2章リズム綴方教育論」(『佐々木昂著作集』, 無明舎出版, 1982年6月) 277-316頁
2. (共著)「教科外教育における教育評価の諸問題」(『教育目標・教育実践と教育評価』, 日本標準, 1984年10月) 234-263頁
3. (共著)「教育勅語体制下の道德教育」(『基礎からの道德教育』, 福村出版, 1986年6月) 12-26頁

4. (共著)「生活の把握と『調べる綴方』」(『作文教育実践講座』第1巻, 駒草出版, 1990年4月) 209-215頁
5. (共著)「綴方教育の現状と課題」「音読・朗読指導の現状と課題」(『国語教育の現状と課題』日本標準, 1991年4月) 114-140頁, 263-278頁
6. (共著)「授業の設計と指導の原則」(『教育方法』, 協同出版, 1991年9月) 37-54頁
7. (共著)「国語教育における『子どもの発見』—生活綴方運動と『調べる綴方』—」(『教育方法学の再構築』, あゆみ出版, 1995年3月) 268-289頁
8. (共著)「構成段階の学習指導の方法」(『生きてはたらく国語の力を育てる授業の創造』, ニチブン, 2000年7月) 212-217頁
9. (共著)「『書くこと』文章表現とその指導」(『新しい小学国語の創造』, 双文社出版, 2004年12月) 83-134頁
10. (共著)「生活綴方と教育」(『戦後の生活記録に学ぶ』, 日本図書センター, 2009年2月) 145-168頁

論 文

1. (単著)「形象理論と生活綴方 滑川道夫の戦前における綴方教育論の検討」(『関西教育学会紀要』6号, 1982年6月), 45-49頁
2. (単著)「佐々木昂の綴方教育論の形成過程に関する一考察」(『関西教育学会紀要』7号, 1983年6月) 53-57頁
3. (単著)「戦前生活綴方運動における教育方法思想に関する一考察 1930年代の児童方言詩論争における言語観の検討を中心として」(『京都大学教育学部紀要』30号, 1984年3月) 193-208頁
4. (単著)「佐々木昂の生活綴方教育論 土崎時代を中心として」(『三重大学教育学部研究紀要(教育科学)』42巻, 1991年3月) 1-12頁
5. (単著)「1950年代における京都府大江地方の文集活動—戦後生活綴方実践史研究—」(『国語科教育』42巻, 全国大学国語教育学会, 1995年3月) 45-52頁
6. (単著)「文章表現の特質を生かした指導研究を」(『教育科学国語教育』528号, 明治図書出版, 1996年7月) 51-52頁
7. (単著)「西郷文芸学の<源流>としての民話研究」(『西郷竹彦文芸・教育全集』第7巻, 恒文社, 1996年8月) 501-510頁
8. (単著)「方言詩教育の提起する問題」(『日本教育史研究』第15号, 日本教育史研究会, 1996年8月) 87-90頁
9. (単著)「佐々木昂の生活綴方教育論(2)『調べる綴方』論を中心として」(『三重大学教育学部研究紀要(教育科学)』50巻, 1999年9月) 1-11頁
10. (単著)「教師の自己教育の課題と西郷全集」(『文芸教育』77号, 明治図書出版, 1999年9月) 90-94頁
11. (単著)「生活綴方の進路と『総合学習』佐々木昂は『調べる綴方』の何を批判したのか(1)」(『作文と教育』652号, 百合出版, 2002年1月) 68-73頁
12. (単著)「生活綴方の進路と『総合学習』佐々木昂は『調べる綴方』の何を批判したのか(2)」(『作文と教育』653号, 百合出版, 2002年2月) 48-53頁

13. (単著)「生活綴方の進路と『総合学習』佐々木昂は『調べる綴方』の何を批判したのか(3)」(『作文と教育』654号, 百合出版, 2002年3月) 40-45頁
14. (単著)「論理的表現力を育てる『書くこと』の授業」(『月刊国語教育』, 東京法令出版 Vol.22 No.01, 2002年4月) 32-35頁
15. (単著)「文学教育と生活綴方の接点」(『語り合う文学教育』第1号, 2002年6月) 13-20頁
16. (単著)「子どもと文学を見いだす授業づくりへ」(『語り合う文学教育』第2号, 2003年7月) 2-8頁
17. (単著)「青年の『創造性』を巡る意識の実態とルポルタージュの可能性」(『大学における知的財産教育研究報告書』, 三重大学教育学部, 2004年3月) 1-13頁
18. (単著)「『読み深め』のための教材研究の進め方 神沢利子『ちょうちよだけになぜなくの』を中心に」(『語り合う文学教育』第3号, 2004年12月) 13-19頁
19. (単著)「子どもへの『まなごし』と語り合う文学教育」(『語り合う文学教育』第4号, 2005年12月) 10-14頁
20. (単著)「子どもの詩への期待と教科書教材の問題点」(『語り合う文学教育』第5号, 2007年2月) 13-18頁
21. (単著)「熊野の子どもの生活と表現」(『世界遺産熊野地域の言語表現の豊かさの解明と教材開発』基礎研究C研究成果報告書, 2009年3月) 37-61頁
22. (単著)「情報時代の文学教育」(『語り合う文学教育』第9号, 2011年3月) 2-7頁
23. (単著)「教育実践の内的把握を可能とする実践記録のありかた」(『語り合う文学教育』第10号, 2012年3月) 27-32頁
24. (単著)「あまきみこの『白いほうし』と教科書」(『語り合う文学教育』第11号, 2013年3月) 26-33頁
25. (単著)「絵本の特質と教科書の限界『サラダでげんき』をてがかりとして」(『語り合う文学教育』第12号, 2014年3月) 16-22頁
26. (単著)「小学校における『伝統的な言語文化』の学習と『徒然草』」(『語り合う文学教育』第13号, 2015年3月) 9-17頁
27. (共著)「日中韓三か国における漢字教育の現状と課題」(『立命館産業社会論集』51巻4号, 2016年3月) 13-34頁
28. (単著)「教科書の挿し絵をどう活かすか 『おにたのほうし』を手がかりとして」(『語り合う文学教育』第14号, 2016年3月) 7-16頁
29. (単著)「物語をとおして向き合いたいこと～絵本『おにたのほうし』再論」(『語り合う文学教育』第15号, 2017年3月) 8-16頁
30. (単著)「新しい学習指導要領と文学教育」(『語り合う文学教育』第16号, 2018年3月) 9-15頁
31. (単著)「魂のゆくえに寄り添い続けること～『ちいちゃんのかげおくり』の最後の場面をめぐる」(『語り合う文学教育』第17号, 2019年3月) 9-17頁

IV. 社会における活動

2001年4月～現在

語り合う文学教育の会副会長

以上

